

デーリー東北
2019年(令和元年)8月27日(火曜日)(16)

復元「みちのく丸」見学会スタート

北前船歴史に思いはせ

野辺地

野辺地町は24日、同町の常夜燈公園で、復元北前船「みちのく丸」の船内見学会をスタートした。来場者は帆柱などを眺めながら、北前船の歴史やかつての船旅に思いをはせた。本年度の見学会は10月中旬まで計6回行う予定。(藤村大地)

10月中旬まで計6回



みちのく丸を見学する参加者

同町が所有するみちのく丸は昨年、野辺地漁港に陸揚げされた。町は同船を中核とした地域振興策「のへじベイフロント計画」に取り組んでおり、誘客に向けた交流拠点整備事業などを進めている。船内見学会は同船や町に興味を持ってもらうのが目的。

船上では、来場者が甲板などへ上がり、物資を収める船倉や高さ28メートルの帆柱などを見学した。家族と訪れたむつ市のスクールサポーター星野七重さん(46)は「船の大きさに驚いた。この船が全国に行っていたと考えるとすごい」と笑顔を見せた。

同日は、タブレット端末で同船の歴史や復元方法などを表示する「みちのく丸ITガイド」を制作した八戸工業大の学生もスタッフとして参加。来場者に同ガイドを活用してもらい、より詳しい内容が分かる手助けをしていた。

4年の八重澤拓麻さん(21)は「子どもたちが3Dモデルで楽しく遊んでくれていた。改良点も見つけたので、次に生かしたい」と話した。